

学びを紡ぐ ～思考力を育て高める教育の実現に向けて～

校長 萩原 哲哉

6月15日、一部の体調不良者等を除き、久しぶりに全校児童・教職員が同じ時間に学校生活を開始しました。思えば今年の2月末以来、3か月ぶりのことです。まだまだコロナウイルスへの警戒は続けなければいけません、少しずつ、元の生活に戻る歩みを進めている思いがいたします。

本来であれば年度当初、児童に話をすべきことですが、こうした状況の中でしたので、この機会に、新しい学校教育目標について話をしました。

トップページにも掲載されている通り、今年度から学校教育目標を新たにしました。一昨年度発足した「学校運営協議会」の委員の皆様のお知恵をいただきながら、文言にも思いを込めています。

特に、「つむぐ（紡ぐ）」という言葉は児童にとってあまりなじみのない言葉（漢字(音読み)は中学校で、訓読み(意味)は高等学校で学習します)ですので、目標として掲げることにはかなり春秋しましたが、やはりこれからの時代に活躍する子どもたちに、大切にしてほしい事柄と判断し、使用しています。

「たくましい」の意味は大丈夫ですね。元気がよいとか、力強いとかいう、意味です。ここではあまり聞かない、「つむぐ」という言葉についてお話しします。

意味は、「細い糸をねじって、より太い糸にしていく」こと。このことから、「さまざまな物事をつなぎ合わせたり、絡み合わせたりして 丈夫にしていくこと」という意味を持ちます。「言葉を紡ぐ」「歴史を紡ぐ」「人生を～」「命を～」・・・、共通するのは、つながれる前・絡み合う前と後とでは、その姿が異なる、ということです。

子どもたちは、毎日様々な事柄を学びます。授業で学習する各教科等の内容はもとより、生活経験そのものが学びの場・学びそのものになります。街中で自動車を見る時、「はたらく じどうしゃ」（1年国語）の学習を思い出す子もいれば、「自動車工場（見学）」（5年社会・校外学習）、「うごくおもちゃ」（1年生活科）、乗り物を利用する際のマナー（道徳、特別活動）、図画工作や理科で作ったおもちゃ、・・・思い浮かべることがらはさまざまです。この時、それぞれの頭に浮かんだ事柄が、目の前の事象と関連付けられたときこそ、子どもの中で学びが「紡がれた」瞬間です。

「紡ぐ」ことを通して本校で培っていくことは、すなわち「考えることを大切にすること」。換言すれば、「思考力」です。これからの変化の目まぐるしい世の中を支え生き抜いていく上で、なくてはならない力の一つであると考えています。

子どもたちが日々生活する地域の皆様方にも、これまで同様、あるいはこれまで以上に、多くのお力添えを賜り、地域との絆も紡いでいければ、ありがたく存じます。

コロナウイルスの感染防止に向けて、今後もいろいろなことが例年通り行えない、進まない場面があると思いますが、未来を生きる子どものため、教職員一同、全力を尽くして参ります。どうぞ今後共、よろしく願いいたします。